



## 社会福祉協議会 研修 見て・触って・確かめて「介護すまいる館」

登戸地区社会福祉協議会は、11月15日にさいたま市にある福祉用具総合展示場の「介護すまいる館」の視察研修を行いました。

▲全て乗って確かめられる車いす

さいたま市浦和区にある「介護すまいる館」は、介護保険サービスの対象となる福祉用具をはじめとした、高齢者介護のための様々な商品が展示されています。見て、触って、確かめて。気に入った商品のレンタルや購入ができるようになっています。

また、ユニバーサルデザイン（障害の有無、年齢や性別、人種などに関わりなく誰もが等しく使いやすい）コーナーも設置されており、見学者にはプルトップ缶やペットボトルキャップのオープナーに人気が集中していました。

### 老人福祉部会



40年続く「ふれあい会食会」は、楽しく、美味しく、賑やかに生きがいづくりの楽しい食事会を開いています。バタカラ体操、頭の体操・手遊びで、健康・認知症防止を、血圧測定では元看護士が健診相談も行っています。部会研修は10月7日長沢浄水場へ。

### 青少年福祉部会



青少年と地域の方々との良好な環境を作ることを目的に活動しています。親子で楽しめる紙飛行機大会の開催や、七夕まつりを実施しました。子供会への協力として、「たまたま子育てまつり」、「K.F.Jまつり」への参加。また登戸小学校の「登戸フェスティバル」、節分祭等に協力しています。

### 障害福祉部会



地域の障害のある方々と共に活動し、障害者への支援の輪が広がることを目的に活動しています。12月8日には地域の障害のある方を福祉パルたまに迎え、「クリスマス会」を開催しました。また、登戸小学校の「登戸フェスティバル」にも参加しています。



社協は  
社会福祉協議会の  
略称

# のぼりと

3.31  
2019

No.28

発行 登戸地区社会福祉協議会  
川崎市多摩区登戸1763  
ライフ デン向ヶ丘2階  
TEL 935-5500  
発行人 吉田紀代子  
編集人 総務企画部会

健康と幸せが守られる明るい福祉の街づくり

## 「鬼怒川堤防」決壊から3年 常総市の今を観察

昨年の夏は「異常気象」の連続…。台風で孤立した関西国際空港、ハザードマップの予測通りの堤防決壊で大きな被害を受けた倉敷市真備町、震度7で道内ほぼ全域が停電した北海道地震など。

私たちの住む登戸も、川崎市のハザードマップで浸水危険地域に指定されており、決して他人事ではありません。そんな問題意識をもって10月18日、総務企画部会は「関東・東北豪雨」から3年たった茨城県常総市を観察してきました。

### 常総市の災害とその後の対策

常総市役所では平成27年9月の「関東・東北豪雨」の災害概要、教訓や取組を、映像をもとに分かりやすく説明していただきました。



▲常総市役所会議室

常総市は鬼怒川の堤防が決壊して市域の3分の1が浸水し、甚大な被害を受けました。

常総市のハザード

マップどおりの浸水範囲だったにも拘らず、住民が知らなかったりして、被害が拡大したといいます。

水害から3年、「防災先進都市」を目指し堤防のかさ上げ、拡幅や想定浸水深の表示、防災情報システムの構築などの対策。また水害を想定した防災教育と訓練や、小中学ではゲーム感覚を取り入れて防災意識の向上や対策に力を入れています。

### 鬼怒川の堤防決壊現場は…

鬼怒川の堤防決壊現場3カ所を、鬼怒川を管理する下館河川事務所の3人に案内していただきました。



▲修復した堤防の右側には整地された土地が広がる

被害を受けた堤防決壊個所(上三坂地区)の復旧工事も完了し、堤防補強(漏水対策)は全て完成するなど、工事が進み避難者も戻りつつあるとの事でした。

### 「どこでも起りうる」を肝に銘じて

多摩川も決壊の可能性はあります。現に昨年10月の豪雨時、調布市の石原水位観測所で多摩川の水位が「氾濫危険水位」に迫り「避難勧告」が発令され、多摩区で48人が避難しています。自分と大切な人の命を守るために、みんなで意識を高め、豪雨に備えることが大切です。

### ◆「支えあいの心」を大切に◆

登戸地区社会福祉協議会は地域の皆様方の温かいご支援と、ご協力に感謝申し上げます。「赤い羽根共同募金」「年末助け合い運動」は地域福祉の活動に有効に使わせていただいております。

住み慣れた登戸の地域で支えあい、顔の見える関係づくりを大切にしていくことは、多発している災害時において非常に役に立つことです。今年も安全、安心の地域福祉の取り組みに「支えあいの心」を大切に一層努力してまいります。



登戸地区社会福祉協議会  
吉田紀代子



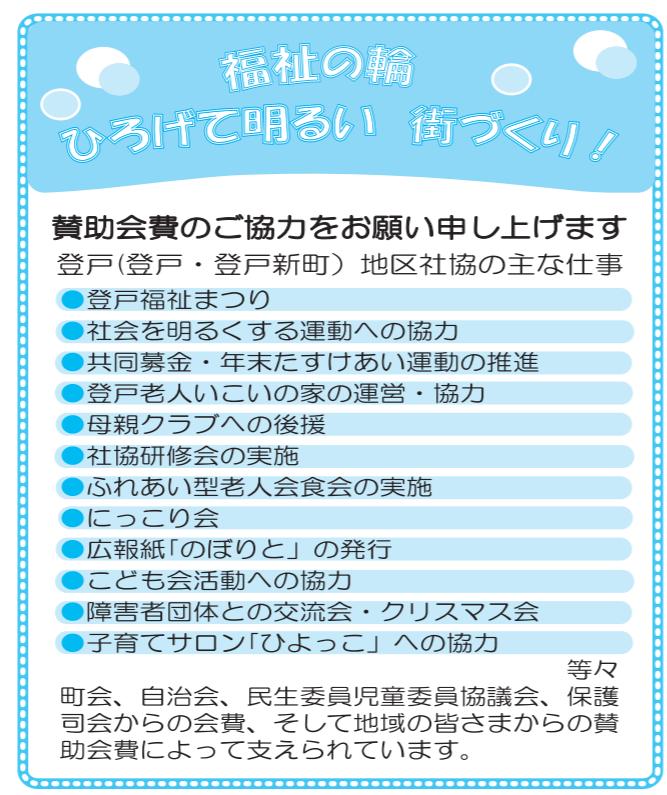
たくさんのご協力  
ありがとうございます!!

平成30年度賛助会費報告 1,200,000円  
(内 803,225 円を登戸地区社協に還付)

共同募金・年末たすけあい募金

ご協力ありがとうございます

登戸地区  
平成30年度募金総額  
2,035,342円



## 私たちの町の小学校は2校

登戸にはあおよそ小田急線を挟んで東西に登戸小学校と、宿河原小学校の2つの小学校があります。登戸の町会は10町会あり、小学校下校時の見守りは町会ごとを行っています。

### 学区域の区分

登戸小学校	東本町会、中央町会、新川町会、中部町会 台和町会、多摩川町会、登戸新町町内会
宿河原小学校	南武町会、下河原町会、南町会

## 見守り活動と学校の交流

★ 登戸小学校ではパトロール協力者を招待する「安全感謝のつどい」が毎年開催され、老人会会員が作った「パトロールソング」が受け継がれています。

★ 宿河原小学校は年度末に生徒による「ありがとう集会」や、学校推進会議が開催され、老人会安全センターとの意見交流、情報交換などを行い、見守り活動に反映させています。

## 台和町台南支部 1人で登下校見守り!



▲一人で見守り小泉三郎さん

毎日1人で町内と、小学生の見守り防犯パトロール活動を行っている小泉三郎さんにお話を伺いました。

「平成17年から現在まで町内の防犯パトロールを行っています。平成17年頃は農家の家が点在している程度で人が少なかったです。そのため空き巣が多く発生しましたが、地域全体で防犯パトロールが活潑になり、犯罪が減少しました。しかし、従来からパトロール活動していた人達は高齢化により年齢構成があがり、参加する人が減少しました。

また町内は発足当時の農家中心とは大きく変わりました。小学生は増えてでも登下校時間帯の防犯パトロールに時間を取りれる人がいなくなり、私1人でも交差点に立てば、防犯・交通事故の防止の役に立てればと現在も行っています。」とのことでした。

特集

# 小学校下校時の見守り活動

## 子どもたちとのふれあいは楽しみ…

児童に降りかかる様々な事件・事故の被害から児童を守るため全国の地域では自治体、学校、保護者、町会、住民、警察、NPO、企業などがいろいろの取り組みを行っています。

登戸地区でも平成18年に多摩区内で発生した事件を受け「登戸地区老人クラブ連合会」が見守り活動を開始、町会やPTAも巻き込み地域ぐるみの活動となりました。その活動は地域における見守り活動の一環として現在に至るまで受け継がれ児童の安全に貢献しています。

今回は私たちの町(登戸地区) 10町会の老人会ボランティアが中心となり、小学校の通学路で児童の登下校時に行っている見守り活動の様子を紹介します。

## ♥ 見守り活動ありがとう ♥

【中部町会】



【東本町会】



【多摩川町会】



【台和町会】



【新川町会】



【登戸新町町内会】



【南町会】



【下河原町会】



## 各町会からの声…

各町会ごとの取り組み方はそれぞれに異なっています。老人会のみの対応、老人会とPTAが連携、有志グループ、個人など、今回の掲載にあたり聞き取りで明らかになりました。

共通していたのが温かい眼差しで子どもを見守っている姿と、組織を維持する努力が浮かんできました。

★ 多摩川町会では登戸稻荷社脇の交差点において町会有志の方々による見守り活動を行っています。

見守りパトロールを行うにあたっては、学校から毎月配られる下校目安時刻表を基に、「安全パトロール参加者リスト」を回覧し、参加者の希望した日に見守りを行っています。

★ 南武町会のある日のエピソード。「舟島の踏切で下校パトロールをしていたとき、学童に行くのを忘れた子が自宅に帰ってしまいました。入れなくて踏切まで戻ってきたので、1時間後に下校してくるお兄ちゃんを、私も一緒に待ったがありました。」

★ 南町会から。姿が見えているのに…。声が聞こえるのに…。なかなか横断歩道に近づいて来ない。ハラハラしながらも待っている。この帰り道が子どもたちにはとっても楽しいひと時と思うから…。ちょっと前までは多くの子どもたちが遊んでいたと思う。だからこの寄り道を私たちも大切にしてやらねば、と日々子どもたちに接しています。

## ◆ 見えてきた課題 ◆

現在、小学校下校時の見守りは各町会有志の方々が中心になって活動を継続していますが、高齢化により参加できる人数の減少が進み、年々活動に支障が出始めています。今後、登戸地区の子どもたちの安全・安心を支えて行くためには、世代を超えた活動参加者の維持や、いろいろな団体（自治体、学校、保護者、町会、社協、警察、企業など）との地域全体での連携の取れた見守り活動の必要性が求められています。